

<公開授業> 宮崎県立宮崎大宮高等学校

## 新聞スクラップの活用 ～汎用性のある発展を目指して～

発表者 教諭 五反田 聡

### 1 はじめに

本校は、1889年・明治22年に尋常中学校として開校し、旧制宮崎中学校や旧制第一宮崎高等女学校などを経て戦後の学制改革により宮崎大宮高等学校となり、創立134年目を迎える伝統校である。旧制中学の60年間、新制高校の60年間をそれぞれの節目とし、現在は、宮崎大宮の第三の時代と考え、新たな歴史を刻むべく、日々の活動に取り組んでいる。現在、各学年普通科7学級、文科情報科2学級が設置され、平成31年度までSGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）に指定されていたこともあり、ICTやAI技術の進展、Society5.0の到来など、激変していく社会において、これからの社会に必要とされる資質や能力の育成、日本のみならず世界のリーダーとなる素養の育成など、宮崎県をリードする高校として、様々な教育実践に取り組んでいる。

本校におけるNIE活動は国語科や総合的な探究の時間などの教科指導の他、新聞スクラップなどはホームルーム単位で行われている。今大会では、発表者がホームルーム単位で行っている新聞スクラップの取り組みを授業公開という形で発表する。

新聞スクラップを行う目的は大きく3つある。「新聞に触れる習慣を身につけさせる」、「新聞を通じて興味・関心の幅を広げさせる」、「進路決定・大学入試に向けて準備させる」であるが、かねてから、ホームルーム単位の活動であっても、新聞スクラップ（情報の収集）で終わらせることなく、収集した情報を整理・統合させ、自ら課題を発見し、解決に取り組もうとする態度の醸成につなげられないかと思案していた。

今回の実践が、各学校の先生方に「これなら私にもできる！」と感じていただける、そしてNIE活動がさらに広がっていくきっかけとなれば幸いである。

### 2 本授業の趣旨

#### (1) 単元について

今回のテーマは、

- ・いつでも：時期（タイミング）が限定されることなく
- ・どこでも：学校種（小中高、普通科・専門学科）に関係なく
- ・誰でも：気負いなく誰でも実践できる

であり、特別な教科を意識しているものではないが、総合的な探究の時間の他、新科目「公共」など様々な場面で活用できるものとする。

#### (2) 本時について

新聞スクラップには大きく2つのパターンがあると考えている。①広く自らの興味関心に応じた記事を収集する。②何らかの主題（例：地球温暖化について など）を設定しそれに関連する記事を収集する。

総合的な探究の時間など、課題の設定・解決法の考察・提案を目標とする授業においては大方の場合、上記の②の方法が用いられることが多いように思う。本時では、上記①により収集された情報を使って同様の取り組みができないかという挑戦である。

<本時までの流れ>

- ① 新聞スクラップを行う
- ② 記事の内容を整理し、記事プレゼンに向けた原稿作成を行う
- ③ 記事プレゼンを行い、「望ましい“ミライ”」を考え（課題の設定）、社会等への関わり方について考察しまとめる（課題へのアプローチ）【本時】
- ④ ③でまとめたものを、全体に向け発表する

(3) N I Eとの関連

上記（2）に記載のとおり

3 本時の学習指導

(1) 目標

- ① 多様な視点から「望ましい“ミライ”」を考える。
- ② ①の実現に向けて、自己と社会の関わりについて考察しまとめる。

【思考・判断・表現】

(2) 学習過程

主な学習活動	留意点等	準備等
<p>1 本時の活動内容について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① グループ内で記事プレゼンをする。</li> <li>② 望ましい“ミライ”の実現に向けどのような取り組みができるか考察しまとめる。</li> </ol> </div> <p>2 グループ内で記事プレゼンをする。</p> <p>○ 3人で1つのグループを作り、その中で自分がスクラップした記事についてプレゼンを行う。</p> <p>&lt;プレゼンの内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記事の要旨</li> <li>・自分なりの提案、展望等</li> </ul> <p>3 望ましい“ミライ”の実現に向けてどのような取り組みができるか考察しまとめる。</p> <p>○ グループ内で1人を選び、その生徒が望む“ミライ”の実現に向けた方策等について3人でアイデアを出し合う。</p> <p>4 上記3で出たアイデアを整理し、次時に向けて発表の準備をする。</p>	<p>堂々とした態度で発表すること。必要な情報はメモを取ることを指示する。</p> <p>・「自由に」「他者のアイデアを批判しない」「質より量」というブレストの基本を確認させる。</p> <p>・自分が社会とどのように関わるかという視点で考えさせる。</p>	<p>発表原稿</p> <p>付箋</p>